

古賀春江 自筆葉書

「基本情報」

古賀春江自筆葉書

宛先 「越川先生」 (越川弥栄か)

消印 昭和三(一九二八)年三月二五日午後二丁四時、久留米

技法不明(ペンか)

一四・二〇×九・一五センチメートル

「翻刻文」

宛名面上部

大分県

男子師範内

越川先生

御(註)

宛名面下部

春雨が降りますと

大分を思ひ出します

御親切でした皆様が

しみ 嬉しいのでした

いろ 御世話いたゞいて

有難う存じます

御身御大切に祈り

上げます

久留米寺町

善福寺内

古賀春江

〔註〕

は判読困難であることを示す。

〔解説〕

この葉書は洋画家の古賀春江本人によって書かれたものと思われるが、鑑定は受けていない。

消印と差出人の住所によれば、古賀は昭和三（一九二八）年三月二五日に久留米の実家からこの葉書を出したようである。古賀は一九二七（昭和二）年一月に神経衰弱を癒す

ために帰郷しており、一九二八（昭和三）年五月末に長崎に転地しているため、その日に
実家から葉書を出したとしても不自然ではないだろう。

宛名は「越川先生」としか書かれていないが、その頃に大分県師範学校の校長を務めて
いた越川弥栄である^{〔註一〕}。

この葉書は一九二七（昭和二）年の第一四回二科展に出品された古賀の《煙火》の絵葉
書であり、通信面にその図版が載っているが、この作品は現在川端康成記念会が所蔵して
いるので、通信面の画像は掲載しないことにした。なお、通信面には肉筆による書き込み
は何もない。

〔註〕

一、杉本秀子編「古賀春江年譜」（石橋財団石橋美術館・石橋財団ブリヂストン美術館編
集『古賀春江 前衛画家の歩み』、石橋財団石橋美術館・石橋財団ブリヂストン美術
館発行、発行日は無表記だが著作権表記は一九八六年、一八二頁）。

二、下記の論文において、同校の校長であった当時の越川の意見が引用されているため、
彼がかつてその職にあったことが分かる。船寄俊雄「文理科大学・高等師範学校の存
廃問題」（『神戸大学発達科学部研究紀要』四 二、一九九七年三月、二〇〇八年八
月一二日に神戸大学学術成果リポジトリ Kernel に登録された「左記の URL 参照」
二〇一四年四月一七日閲覧、一四二頁〔下部の頁数〕、三三七頁〔上部の頁数〕、一
二頁〔PDF の頁数〕。同じ論文によれば（註三一、三三三頁〔上部の頁数〕、一四
六頁〔下部の頁数〕、一七頁〔PDF の頁数〕、出典は一九二九（昭和四）年六月一

日に発行された文献なので、その日の時点では校長であったと思われるが、詳細な在任期間は未調査である。

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81000248.pdf>

執筆者・発行者 植田智晴

二〇一四年四月一七日発行

© UEDA Tomoharu 2014

この PDF の無断での転載、複製などは禁止されています。